

TSUNAGU

～学びの先の夢に向かって～

東大阪市教育委員会 小中一貫教育推進室



トピックス

小中一貫教育推進室だより「TSUNAGU」では、子どもたちの様子や教職員の実践をもとに、市内における小中一貫教育をはじめとした連続・一貫した教育活動の状況を共有していきます。

花園中生徒会「小中一貫教育を盛り上げたい」

小中一貫教育が本格実施となり7ヶ月が過ぎました。各中学校区では様々な取組みが進められて、これまでの取組みの積み重ねが新たな特色として現れてきています。その一つとして、花園中学校区の様子を紹介します。

花園中学校区の6年生は中学校登校の際、中学校教員による授業を受けたり、中学生と共に同じ場所で同じ時間を過ごしたりして、少しずつ中学校での生活を体験しています。このように中学校への移行期に感じる不安の解消につながる経験を重ねることで、取組みのねらいにせまる効果が現れてきています。

また、中学生にも小学生に見られていることによる年長者としての自覚の高まりが日々の様子に現れています。

先日、後期生徒会の会長が、1回目の会議において「小中一貫教育を盛り上げたい」と決意表明しました。その考えを実現するため生徒会では、どのように関われば小学校とのつながりが生まれるのか考えを出し合い、今後の取組みについて具体的に話し合いを進めています。

生徒会役員の会長を含め数人を昨年担任していたのが、花園中学校区の小中一貫教育コーディネーター(Co)である遠藤先生です。小学生を温かく迎えている先生たちの姿を見て、生徒が自分たちにもできることがあると感じて生徒会に立候補し、活動することにつながったとのことでした。遠藤先生は、「生徒からこのような声があがったことに驚きとともに嬉しさを感じています。生徒と一緒に小中一貫教育により一層、取り組んでいきたいです。」と話されていました。

大人だけでなく、子どもたちが自ら進める小中一貫教育で今後、どのような取組みが行われるのか楽しみであり、大きな可能性を感じます。

このような様子が、他の中学校区でもさまざまな形で見られることから、小中一貫教育の日々の取組みが中学校区の新たな特色として現れてきていることがうかがえます。



小中一貫教育コーディネーター (Co)

伝えることの難しさ

9月以降、Co会議では主に夢TRY科の推進について協議をし、授業についての研究も進めてきました。例えば、夏期休業中に行った夢TRY科授業検討会では、Coによる模擬授業を何度も実施し、協議を重ねました。始めたばかりの頃は、積み重ねのない教科のため、イメージをつかめず困惑するCoも多かったです。今では多くのCoが、授業イメージを持つことができるようになりました。

Coは、このような会議や検討会などでつかんだ情報や学んだ内容を各中学校区で共有しようと定期的な会議、お便り、学校訪問など様々な方法で発信しています。Coは、あらゆる手段を使って、なんとか効果的な情報共有の方法はないかと考えています。

現在、小中一貫教育推進室は、小学校の訪問を行い、夢TRY科の授業を参観しています。その中で、Coが夢TRY科の授業の進め方など、それまでに中学校区の教員に発信してきたことが案外伝わっていないことに気づくことがあります。発信していることでも、なかなか伝わりにくいなあと感じています。

そこで最近では、「Coは待っているのではなく、入りこむ。」という考えのもと、今まで以上に中学校区の先生方との関わりを進めていこうとCo会議で確認しています。小中一貫教育推進室としてもCoに対するサポートを通じ、中学校区全体に対する支援につなげていきたいと考えています。



お金の役割って?～ポイントは「うなぎ」～

「社会でお金が決めるもの」

小見出し「社会でお金が決めるもの」は、物の値段の移り変わりを題材にした学習です。お金は、物を買うだけでなく物のねうちを決めていることを学ぶことを通じて、お金の役割について考える学習です。

このことを子どもたちに自分ごととして考えさせるために、100円均一ショップなどの買い物を思い出しながら、他とは違った値段の変化をしている「うなぎのかば焼き」に着目することがポイントとなっています。



テキスト P.34. 35

枚岡東小学校での実践

10月に、枚岡東小学校で実践された様子を参観しました。導入では、枚岡中学校区Coと枚岡東小一貫担当、担任の3人による物々交換の寸劇で、課題提起をされました。子どもたちは時代と共に物の値段が変わることに気づき、友だちと相談をしながらその理由について考えていました。活発に手を挙げる姿や悩みながら相談している姿が見られました。

授業者は、「難しい内容にもかかわらず、子どもたちが一生懸命考えることができていたので、授業者としても楽しんで授業をすることができました。」と話していました。



↑ 4年生での授業の様子
3年生での授業の様子 ↓



本小見出しの題材は、子どもたちにとって新しく知ることが多く、知識の詰め込みとなる可能性があります。知識を得ることが中心になるのではなく、普段考えることの少ないお金の役割について考えさせることが重要です。この実践では、子どもの実態に基づき、3人の教員が授業内容について十分に検討を行ったことで、子どもたちがじっくりと考える学習につながりました。また、小中の教員と一緒に教材研究を行い、楽しみながら授業を行ったことにも大きな意義があったと考えます。

	給料 (国家公務員 初任給)	はがき	うなぎの かば焼き 100g	電気そうじ機 1台
1970年	3万1510円	7円	250円	1万6400円
1990年	15万7300円	41円	642円	2万7700円
2000年	18万4200円	50円	568円	2万6960円
2010年	18万1200円	50円	855円	2万2607円



教育委員会リレートーク

第2回 大原 教育次長

「魅力と可能性を秘めた夢TRY科」

すべての学校で小中一貫教育を本格的に実施しています。その重点取組みである夢TRY科の授業を見学しました。最初に感心したことは、子どもたち全員が楽しく参加している様子でした。私たちの時代に学校で行われてきた、基本的なことを反復して記憶し、そのことをベースとして応用問題を考えていくという授業の形とは違いました。

これからの学校には、正解がない問題について自身の価値観や他者との協働を通して、最適な答えを生み出す力を育てることが求められていると考えています。私は、夢TRY科の時間に「新しい授業」としての魅力を感じ、子どもたちも同じように感じているように思いました。

また、夢TRY科は他の教科にも相乗的な効果を生じさせる

と感じています。それは、肉、魚、野菜などの素材を生かす香辛料のようなイメージです。子どもたちが他の教科についても学習意欲を高め、生きる力を培うことにつながっていくものと考えています。

夢TRY科は正に、そういった魅力と可能性を秘めた香辛料であると思います。

大原 俊也